

店頭に並ぶ豊富な品々

中国吉林省東北師範大学派遣者 竹中 和彦

スーパーに出かけると、様々な商品がところせましと陳列されています。

特に肉、野菜、果物の種類は豊富で、マンゴーやパイナップル、ドリアンなど、ここが東北地方であることを忘れてしまいそうです。もちろん外国から輸入したものもありますが、広大な国土を持つ中国、南方から輸送されてくるものが多いようです。多様な食文化をあわせもつ中国ならではの気がします。

食品に限らず、例えばシャンプーひとつをとっても何種類もの品があります。日本製の化粧品や電化製品といったものも日本で購入するより若干割高にはなりますが、特別なものを除き、お金さえあれば何でも手に入れることができます。

街を歩いていると日本的高级車やアウディ、ベンツなどの車をよく目にします。日本にいてもこれだけの高級車を目にする機会はさほど多くないように思います。(当然高級車ばかりでなく何十年も前の車も非常に多いです。)

もちろん高価な品や車を購入できる人はまだまだ一握りにすぎないのですが、今後、購買力をもつ人々が拡大することは明らかです。

すでに中国でも携帯電話は日本同様、若者やビジネスマンにとっては欠かせないものとなっています。

およそ 13 億人といわれる人口を抱えるこの国の人々が今後、利便性を追及し、いわゆる先進国といわれる国々同様の生活を送ることを想像すると、どれだけの資源が利用され、またどれだけの廃棄物が新たに生まれるのか・・・ぞっとしますが、しかし利便性を求める、物を求めるという欲求は誰しもが持つ本能だと思います。

日本では、"物質的豊かさから心の豊かさへ"という言葉をよく耳にします。

鳥取県庁のほとんどの職員はパソコンが与えられていますが、これらは県が購入したものではなくリースしているものです。こういったリースできるものはどんどんそのようにすればよいのですが、ブランド品などはそう簡単にはいきません。自らが所有することに価値があるからです。

物質的に豊かな社会では、簡単、便利、快適といった状態を容易に手に入れることができます。簡単、便利であり快適であれば、努力を怠り、面倒なことや苦勞を敬遠し、感謝、感激、感動といった大切なことが失われがちになります。物を求めることが問題なのではなく、こういった状態に陥ることのほうが問題なのかもしれません。

とはいってもやはり、地球環境への影響が心配になります。環境負荷がどれほどのものになるのか私には全く想像もつきませんが、物質的豊かさを経験した(あるいは経験できる状態にある)今の日本は他国に対し、例えば省エネ製品を生産するといった動脈産業のみならず、リサイクルといった静脈産業への積極的技術支援、人材育成を行うことが必須ではないでしょうか。

(2008年3月22日)